

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう!



第80回

養正館館長 渡辺貴斗

## 理不尽な要求をしてくる親たち(その4)

### ★ウチの子はやっていません

10年位前の話です。ある日、道場の審査会が終わって、自宅に戻り一息ついたところ、K君のお母さんから電話がかかってきました。

審査会が終わった後、K君が会場の外に出たら、茶帯の上級生A君が執拗にからかってきて「白帯、白帯!」と言いながらK君の頭をゴツゴツ叩いてきたそうです。「A君のことが怖いので、空手を辞めたい」と言っている、という訴えでした。

K君はおとなしい性格ですので、双方が悪くて両成敗りょうせいばいというより、粗暴で、普段から他の子によく手を出しているA君がかなり怪しいな、と思いました。面倒なことになったな、と深呼吸をして、手を出したと思われるA君のおうちに電話をしました。

A君の家庭環境は複雑で、詳しくは言えませんがお母さんが別居中なので、お父さんが電話口に出ました。A君が普段からよく手を出すこと、K君が怖がって空手を辞めたいと言っていることを伝えました。A君のお父さんは、すぐに平謝りするかと思ったら、静かに「わかりました、Aに確認します」と言って電話をいったん切りました。

その30分後、今度はA君のお父さんから、電話がありました。「Aは叩いていないと言っています。K君の方から先に悪口を言ってきたので、やめると言って少し押しただけだと言ってますけど」とのことでした。

とっさに、これはA君がお父さんに叱られないように嘘をついているなと思いました。私はここで2つの大きな失敗に気づきました。それは、話をすべき人の順序を間違えたことと、情報収集を怠ったことです。簡単に問題解決するかと思ったら、おかしい方向に話が進んでいき、一瞬目の前が真っ暗にな

りました。

そこで、お父さんと話しても堂々巡りで埒が明かないと判断し、一度電話を切らせていただきました。その間にK君のおうちに電話をし、その場に誰かいなかったかK君に聞いてみました(K君とA君のどちらが嘘をついているのか、事実関係をはっきりさせたかったからです)。すると、現場に3名いたことが分かり、すぐにその3名に電話しました。3名の話は細部に渡って一致していて、A君が一方的にイジメていたことがはっきりしました。

再度A君のおうちに電話をし、A君を電話口に出すようお願いしました。A君は、真相を知っているであろう私に、悪事が暴かれると思ったのか、なかなか電話口に出て来ませんでした。数分後電話口にやっと出て、しばらく無言のままでしたので、私から「本当のところはどうなのか、叱らないから話してごらん」と穏やかに促しました。予想通り、「ちょっと押しただけです。K君から先に悪口を言って叩いてきました」と答えました。通常ならA君の言い分もしっかり聞きますが、この件に関してはいつもと対応が違っていました。なぜなら、目撃情報もありA君が嘘をついていたのが明らかだったからです。

細部まで私が状況を把握していること、目撃者が大勢いたことをA君に伝えたところ、観念したようで、「ごめんなさい」と大筋を認めて謝りました。

そのあとで、お父さんに事実を伝えましたところ、「相手の親御さんに謝りたい」と申し出てくださり、一件落着きました。

### ★保護者にまず謝らせる?

この件から、いきなり加害した子の保護者に謝罪を要求するのではなく、まず当事者の双方の子供(お

よび目撃者)から情報収集をすることが重要だと学びました。どんなに立派な保護者でも、自分の子供を信じてあげたくなるのは親心です。「ウチの子がそんな意地悪をするはずがない」、「ウチの子はやっていないと言っている」、「ということは、相手の子がウソをついている」という結論に達してしまうのです。そのような親御さんの対応をたくさん見してきました。9割の親御さんは、まず、自分の子を擁護しているように思います。子供は、わざわざ自分の罪を洗いざらいしゃべるはずがありません。そんなことをしたら、自分の立場が危うくなってしまいます。子供とはそういった生き物なのです。

### ★ THE 問題解決マニュアル!

よって、子供同士のトラブルは、以下の手順を進めると問題解決できることとなります。

- ①被害者本人からすべての情報を聞き出す。  
(保護者ではなく被害者本人から)
- ②現場の目撃者を探し、情報収集する。  
(できるだけ、その場ですく)  
※被害者が嘘を言っていることもあります。
- ③事実関係をしっかり把握してから、手を出した子と話をする  
※このとき、決して、保護者と先に話してはいけません。
- ④加害した子の言い分を、まずよく聞く  
※犯人だと決めつけて叱るのは、人格否定になります。
- ⑤嘘をついていたら、目撃者が大勢いることを明かし、ただ事実のみを伝える。
- ⑥すべて認めたとところで、相手の子に謝るか、どうするか本人に決めさせる。  
※通常は、「次の稽古のときに自分から謝ります」と言います。
- ⑦そこまで、しっかり固めてから、初めて手を出した子の保護者に報告する。  
※この手順なら、保護者が子供を問い詰めても嘘をつきません。

※保護者は、電話で謝りたい、直接被害者宅に行って謝りたいなどと言ってくれます。  
※手を出すことについて家庭でも継続的に話をさせていただこう、お願いします。

⑧次の稽古のとき、名前を伏せてこの話をみんなで共有し、再発防止に努める。

### ★周りはみんな敵

子供は自己保身に走りますので、それを知った上で対応する順序を考えなくてはなりません。昔は、学校や空手の先生に叱られて、家に帰って報告すると「お前がまた、悪いことでもしたんだろう」と言われて、もう一度、親からもげんこつをもらったものです。現代では、「私の育て方が悪いとでも言いたいんですか?!」、「うちの子は間違っていない」、「先生は公平にうちの子の言い分も聞いたんですか?」、「うちの子の言っていることと先生の言っていることは違う。この先生、大丈夫?」のように考えてしまう保護者が少なくありません。

先生を信頼していない、自分の子供を(いや、自分自身を)第一に擁護することを考えてしまう保護者が大変多いと感じます。それは、社会に寛容さが無くなり、周りはみんな敵だと考えてしまい、「私の育て方が悪いと周りから思われている」、「私は常に責められている」と感じてしまう現代社会の“生き辛さ”から来ているのかもしれない。

### PROFILE

■渡辺貞斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12

## Column どうやって道場生 350名に増やしたか? その 30

### ■弱者の戦略3 一点集中(自分だけの強み)

引き続き、弱者が強者に勝つための具体的な戦略を考えていきましょう。

今回は、バリュープロポジション、つまり、強者であるライバル道場ができること(提供できるサービス)、見学に来るママさんの望むこと、自分の道場が提供できることの関係性について考えてみます。強者ができることを、弱者が同じようにやっても勝ち目はありません。強者のできないことを探します。しかも、それは、ターゲットである見学希望

者の望んでいる価値を提供できなくては意味がありません。

よって、右図のように、VALUE PROPOSITIONとして表したグレーの部分が、①ママさんが望んでいる、②ライバル道場が提供できない、③自前道場だけが提供できる「価値」となるのですが、そういった、特異な価値を探すことで、弱者は強者に勝つことができるのです(もしくは、少なくとも生き残ることができるのです)。

